



第6回  
日本婦人科がん分子標的研究会  
学術集会  
—阿蘇フォーラム—

日時 ● 2007年7月21日土

会場 ● 阿蘇プリンスホテル

〒869-2232 熊本県阿蘇市赤水米塚温泉  
TEL0967-35-2111 FAX0967-35-1124

会長 ● 片渕 秀隆

熊本大学大学院医学薬学研究部  
総合医薬科学部門生体機能病態学講座 婦人科学分野

## ご 挨拶

この度、『第6回日本婦人科がん分子標的研究会』を7月21日(土)、熊本で開催させて頂くことになり、大変光栄なことと存じております。私どもの教室が腫瘍関係の学会・研究会を担当致しますのは、111年の教室の歴史の中で第5代目の加来道隆教授による日本臨床細胞学会や日本癌治療学会以来のことで、約40年ぶりになります。

この研究会は、志を同じくする婦人科腫瘍学の研究者が軽装で会し、夜を徹して語り合うことを目的に、これまで開催されてきました。その趣旨を受け継ぐ意味で、熊本市から約1時間の距離にございますリゾート地の阿蘇赤水米塚温泉、阿蘇プリンスホテルを会場とさせて頂きました。米国臨床腫瘍学会(ASCO)が発表した2006年の最も重要ながん治療として、腎癌、乳癌、慢性骨髄性白血病や頭頸部癌の標的治療が挙げられている中で、残念ながら婦人科がんの領域では有効な薬剤の開発は進んでいません。しかし、この研究会では世界に発信できる新しい知見が示され、新しい研究者も登場してきました。こういう背景から、今回は一般演題に十分な時間をかけて議論頂くことに加え、婦人科腫瘍学の領域で新進の研究者である兵庫県立がんセンターの須藤 保先生と鳥根大学の中山健太郎先生にカレントリサーチレビューを担当して頂き、加えて今年熊本大学から慶応義塾大学に移られた佐谷秀行教授に特別講演をお願いしております。夜の懇親会では、熊本の美味しいお酒、焼酎、山の幸、海の幸をご堪能頂き、翌日には熊本大学医学部産科婦人科学教室同窓会との合同ゴルフコンペも企画しております。

平成10年より復元整備が進められて参りました熊本城(銀杏城)は今年で築城四百年目を迎え、季節毎にセレモニーが企画されています。森と水の都と呼ばれる一方で、宮本武蔵、阿部一族、北里柴三郎、小泉八雲や夏目漱石などのゆかりの地でもあり、市内各所に歴史的旧跡がございます。また、天草に足をのばせば、『五足の靴』で有名な風光明媚な下田、島まるごとが白亜紀の化石である御所浦などがございますので、この機会を利用して観光もお楽しみ頂ければ幸いです。皆さまのご来熊が実り多い思い出の時となりますよう祈念しております。

第6回日本婦人科がん分子標的研究会学術集会

会長 片 瀧 秀 隆

熊本大学大学院医学薬学研究部 総合医薬科学部門  
生体機能病態学講座 婦人科学分野 教授

## 会場周辺地図

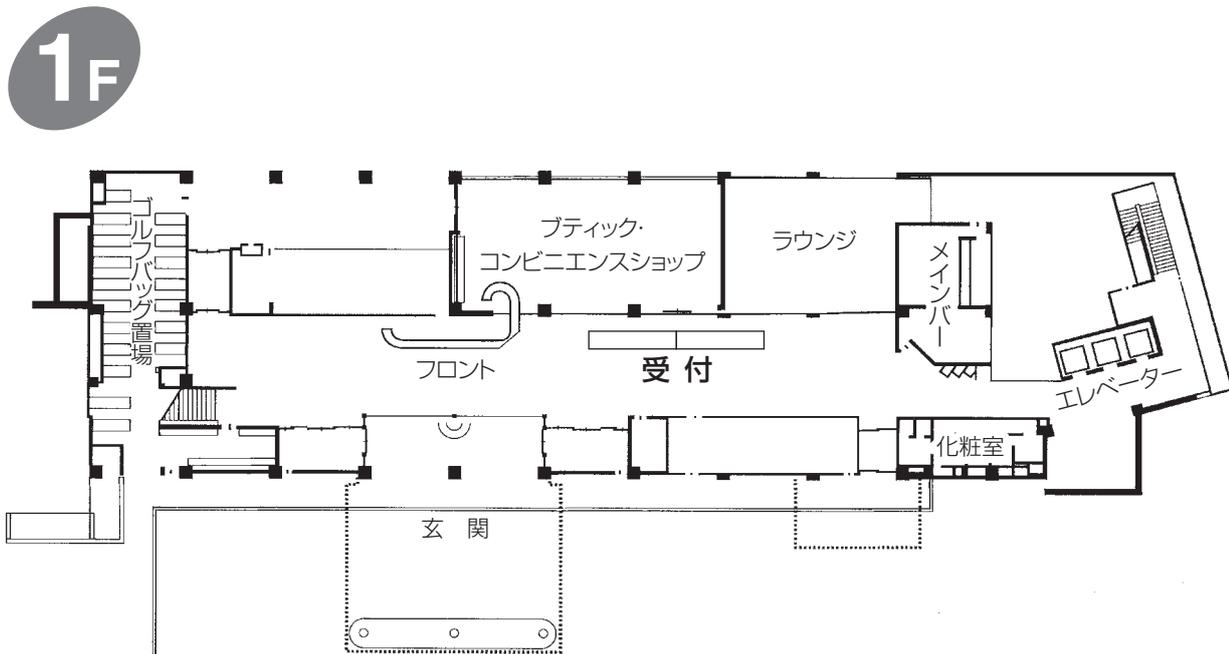
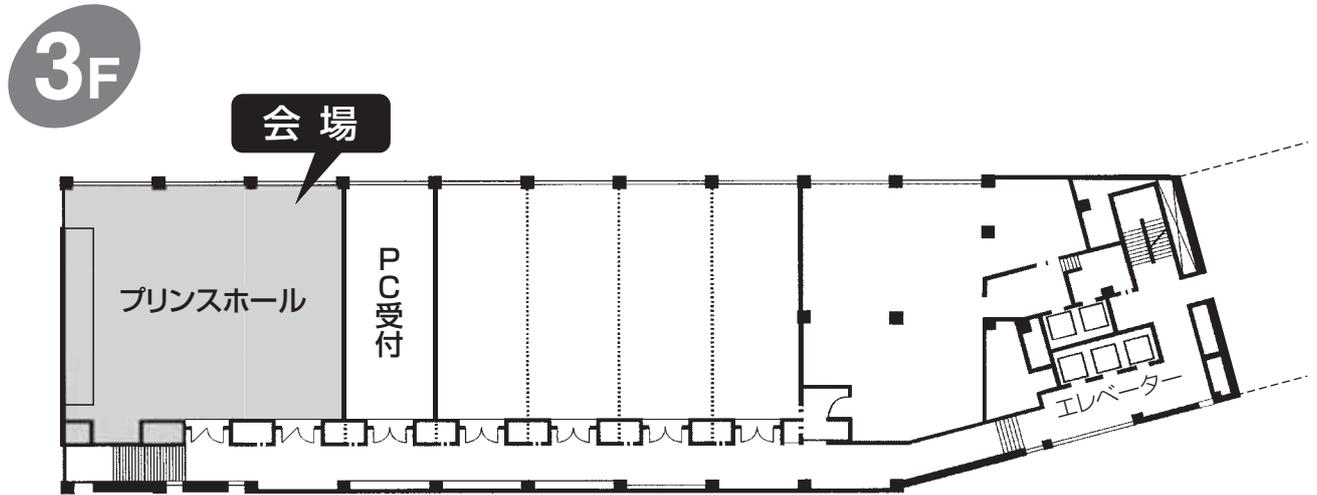


## 会場へのアクセス

- |        |   |
|--------|---|
| 車      | 九州自動車道熊本 IC から国道57号線で30km (平常時40分)  |
| 電車     | JR 鹿児島本線 熊本駅 (JR 九州) からタクシーで1時間10分 (約11,500円)、<br>豊肥本線 赤水駅からタクシーで7分 (約1,300円) |
| 飛行機    | 羽田空港から熊本空港まで1時間25分、<br>大阪空港から熊本空港まで1時間。<br>熊本空港からタクシーで35分 (約7,700円)           |
| シャトルバス | 詳細はホームページにて掲載いたします。   |

# 会場案内図

阿蘇プリンスホテル 〒 869-2232 熊本県阿蘇市赤水米塚温泉  
TEL : 0967-35-2111



## ご案内

2007年7月21日 日 12:00(受付開始)～19:00 阿蘇プリンスホテル「プリンスホール」

世話人会：7月20日 金 17:00～18:00 新茶家(熊本市)

懇親会：7月21日 日 19:30～ 阿蘇プリンスホテル「プリンスホール」

### 【参加者の方へ】

学術集会の参加費5,000円と研究会年会費5,000円、合計10,000円を受付でお支払いの上、参加証及び領収証をお受取下さい。

懇親会を19:30より開催いたしますので、是非ご参加下さい。参加の方は受付にて懇親会費2,000円をお支払い下さい。

日本産婦人科学会専門医シール(10単位)が発行されます。

### 【演者の方へ】

一般演題発表の方は発表時間 口演10分、質疑応答3分です。それ以外の方はプログラム内に記載の通りですが、座長の指示に従ってください。

#### 1) データ受付について

- ファイル名は「演題番号・演者名」として下さい。
- 第1群で発表の先生は40分前までに、他の発表の方は60分前までにPC受付にてデータのチェックを行ってください。
- PC受付では、データの修正はできませんので予めご了承ください。

#### 2) データ作成について

- ご使用になるアプリケーションは、Windows版：PowerPoint 2000／2003／2007のみとさせていただきます。動画は標準のWindows Media Playerで再生可能なものをご使用下さい。(Mac版で作成の方は、ご自身のPCをお持込み下さい。)
- フォントは、OS標準のもののみをご使用ください。
- 画面の解像度はXGA(1024×768)でお願いいたします。
- 保存するメディア媒体は、CD-R、USBメモリをご使用ください。
- CD-Rの書き込みは、ハイブリッド方式をお使い下さい。パケット方式は他のPCで読めない場合があります。

#### 3) PCを持ち込まれる方へのお願い

- 発表の60分前までにPC受付に準備されているモニターに接続し、映像の出力チェックを行ってください。PCの機種やOSにより出力設定方法が異なりますので事前に確認してください。接続ケーブルは、D-sub15ピン(ミニ)をご用意しておりますが、PCによっては付属のコネクタが必要になりますので必ずお持ちください。
- スクリーンセーバー、省電力設定は必ず解除してください。

#### 4) パソコン操作について

- 舞台上に設置されているモニターで確認しながらキーボード・マウスにて各自の操作を進めていただきます。

# プログラム

開会の挨拶 12:50～13:00

一般演題 13:00～15:36

## 第1群

座長：帝京大学医学部 産婦人科学 准教授 喜多 恒和

### 0-01 miRNA (micro-RNA) によるテロメラーゼ制御 – miRNA の新機能 –

金沢大学大学院医学系研究科 産婦人科

○高倉 正博、京 哲、坂口 純子、生駒 友美、水本 泰成、森 紀子、  
橋本 学、毎田 佳子

### 0-02 受容体型チロシンキナーゼ Met を標的とした低分子阻害剤の開発

防衛医科大学校 分子生体制御学<sup>1)</sup>、(株)理論創薬研究所<sup>2)</sup>、東京理科大学薬学部 生化学<sup>3)</sup>、  
東京理科大学 ゲノム創薬研究センター<sup>4)</sup>

○松尾 洋孝<sup>1)</sup>、守本 祐司<sup>1)</sup>、高橋 哲<sup>2)</sup>、吉森 篤史<sup>2)</sup>、佐伯 和徳<sup>3,4)</sup>、  
高澤 涼子<sup>3,4)</sup>、田沼 靖一<sup>3,4)</sup>、四ノ宮成祥<sup>1)</sup>

### 0-03 SP1 阻害剤 (Mithramycin) の癌細胞増殖抑制効果

九州大学生体防御医学研究所 ゲノム創薬・治療学<sup>1)</sup>、  
九州大学大学院医学研究院臨床医学部門 生殖発達医学専攻<sup>2)</sup>、

○大神 達寛<sup>1)</sup>、加藤 聖子<sup>1)</sup>、高尾 知佳<sup>1)</sup>、米田 智子<sup>1)</sup>、山口真一郎<sup>1)</sup>、  
浅野間和夫<sup>1)</sup>、和氣 徳夫<sup>2)</sup>

## 第2群

座長：金沢大学大学院医学系研究科 産科婦人科学 講師 京 哲

### 0-04 Polo like kinase (PLK) の婦人科癌における発現と PLK の発現を抑制する $\beta$ -hydroxyisovalerylshikonin の婦人科癌に対する抗癌作用

大分大学医学部 産科婦人科

○高井 教行、西田 正和、奈須 家栄、榎原 久司

### 0-05 Heparin-Binding Epidermal Growth Factor-Like Growth Factor (HB) と amphiregulin (AR) を標的とした癌治療

福岡大学医学部 生化学<sup>1)</sup>、福岡大学医学部 産婦人科学<sup>2)</sup>、  
九州大学医学部 婦人科学産科学<sup>3)</sup>、産業医科大学医学部 産婦人科学<sup>4)</sup>、  
九州大学大学院 消化器・総合外科<sup>5)</sup>、大阪大学微生物病研究所 細胞機能分野<sup>6)</sup>

○四元 房典<sup>1,2)</sup>、八木 裕史<sup>3)</sup>、園田 顕三<sup>3)</sup>、辻岡 寛<sup>2)</sup>、蜂須賀 徹<sup>4)</sup>、  
瓦林達比古<sup>2)</sup>、沖 英次<sup>5)</sup>、黒木 政秀<sup>1)</sup>、目加田英輔<sup>6)</sup>、宮本 新吾<sup>1)</sup>

## 0-06 Hypoxia-inducible protein 2 (HIG2) 蛋白発現と抗癌剤感受性

大阪市立総合医療センター 婦人科<sup>1)</sup>、東北大学 婦人科<sup>2)</sup>、防衛医科大学校 婦人科<sup>3)</sup>、北里大学 婦人科<sup>4)</sup>、鳥取大学 婦人科<sup>5)</sup>、岩手医科大学 婦人科<sup>6)</sup>、大阪医科大学 婦人科<sup>7)</sup>、兵庫県立成人病センター 婦人科<sup>8)</sup>

○津田 浩史<sup>1)</sup>、西村 貞子<sup>1)</sup>、伊藤 潔<sup>2)</sup>、喜多 恒和<sup>3)</sup>、寺井 義人<sup>7)</sup>、  
上坊 敏子<sup>4)</sup>、須藤 保<sup>8)</sup>、紀川 純三<sup>5)</sup>、杉山 徹<sup>6)</sup>、八重樫伸生<sup>2)</sup>

---

## 第3群

座長：福岡大学医学部 生化学 准教授 宮本 新吾

## 0-07 不死化ヒト卵巣表層上皮細胞株を用いた上皮性卵巣癌の発癌機構の解明

熊本大学大学院医学薬学研究部 産科学・婦人科学<sup>1)</sup>、国立がんセンター研究所 ウィルス部<sup>2)</sup>、

○佐々木瑠美<sup>1,2)</sup>、清野 透<sup>2)</sup>、田代 浩徳<sup>1)</sup>、片渕 秀隆<sup>1)</sup>

## 0-08 癌抑制遺伝子 PTEN 強発現による卵巣癌遺伝子治療の基礎研究

自治医科大学 産婦人科

○竹井 裕二、嵯峨 泰、高橋佳容子、高野 貴弘、町田 静生、高橋 詳史、  
野中 宏亮、大和田倫孝、鈴木 光明

## 0-09 卵巣癌細胞における血液凝固第 VII 因子と組織因子の低酸素下での発現とその凝固活性

横浜市立大学大学院医学研究科 生殖生育病態医学<sup>1)</sup>、  
神奈川県立がんセンター臨床研究所 がん分子病態研究部門<sup>2)</sup>、

○横田 奈朋<sup>1,2)</sup>、小井詰史朗<sup>2)</sup>、佐藤美紀子<sup>1)</sup>、宮城 洋平<sup>2)</sup>、土屋 永寿<sup>2)</sup>、  
宮城 悦子<sup>1)</sup>、平原 史樹<sup>1)</sup>

---

## 第4群

座長：信州大学医学部 産科婦人科学 准教授 塩沢 丹里

## 0-10 卵巣癌腹膜における Heparin binding epidermal growth factor-like growth factor (HB) の役割

九州大学医学部 病態生理学・産婦人科<sup>1)</sup>、福岡大学医学部 生化学<sup>2)</sup>、福岡大学病院 産婦人科<sup>3)</sup>、  
大阪大学微生物病研究所 細胞機能分野<sup>4)</sup>

○八木 裕史<sup>1)</sup>、四元 房典<sup>2)</sup>、深見 達弥<sup>2)</sup>、瓦林達比古<sup>3)</sup>、目加田英輔<sup>4)</sup>、  
宮本 新吾<sup>2)</sup>

## 0-11 卵巣癌における HB-EGF とタキソールとの関連

福岡大学医学部 生化学<sup>1)</sup>、九州大学医学部 病態生理学・産婦人科<sup>2)</sup>、福岡大学病院 産婦人科<sup>3)</sup>、  
大阪大学微生物病研究所 細胞機能分野<sup>4)</sup>

○深見 達弥<sup>1)</sup>、八木 裕史<sup>2)</sup>、四元 房典<sup>1)</sup>、瓦林達比古<sup>3)</sup>、目加田英輔<sup>4)</sup>、  
宮本 新吾<sup>1)</sup>

## 0-12 上皮性卵巣癌に対するシグナル伝達阻害剤を用いた CDDP 耐性克服の試み

鳥取大学医学部附属病院 産婦人科

○川口 稚恵、佐藤 誠也、佐藤 慎也、島田 宗昭、大石 徹郎、板持 広明、  
紀川 純三、寺川 直樹

コーヒーブレイク 15:36～15:45

カレントリサーチレビュー 15:45～16:25

---

座長：東北大学大学院医学系研究科 婦人科学 教授 八重樫伸生  
慶應義塾大学医学部 産婦人科学 教授 青木 大輔

0-13 卵巣癌におけるクロマチンリモデリング因子 RSF-1 の遺伝子増幅  
～新規ゲノムワイド遺伝子検索法 Digital Karyotyping を用いた解析より～

島根大学医学部 産科婦人科<sup>1)</sup>、Johns Hopkins Medical Institutions<sup>2)</sup>、

○中山健太郎<sup>1)</sup>、石橋 雅子<sup>1)</sup>、Wang Tian-Le<sup>2)</sup>、Shih Ie-MIng<sup>2)</sup>、  
宮崎 康二<sup>1)</sup>

0-14 上皮性卵巣癌における生殖幹細胞特異的マーカー VASA の発現：  
生殖幹細胞と上皮性卵巣癌の関連性について

兵庫県立がんセンター 研究部兼婦人科<sup>1)</sup>、愛媛大学 産婦人科<sup>2)</sup>、  
京都大学附属病院 病院病理部<sup>3)</sup>、兵庫県立がんセンター 病理部<sup>4)</sup>、神戸学院大学 薬学部<sup>5)</sup>

○須藤 保<sup>1)</sup>、橋本 尚<sup>1,2)</sup>、三上 芳喜<sup>3)</sup>、埴岡 啓介<sup>4)</sup>、尾谷三枝子<sup>5)</sup>、  
鷹野 正興<sup>5)</sup>、伊藤 昌春<sup>2)</sup>、西村隆一郎<sup>1)</sup>

一般演題 16:25～17:56

---

第5群

座長：横浜市立大学大学院医学研究科 生殖生育病態医学 准教授 宮城 悦子

0-15 子宮内膜癌化に関わる遺伝子の検索の試み：Lipocalin 2 の発現と機能

信州大学医学部 産科婦人科学

○宮本 強、塩沢 丹里、鹿島 大靖、鈴木 昭久、菊地 範彦、  
小西 郁生

0-16 CD151 を介した proMMP-7 の活性化機構と子宮体癌の浸潤の検討

慶應義塾大学医学部 産婦人科<sup>1)</sup>、慶應義塾大学医学部 病理学<sup>2)</sup>

○片岡 史夫<sup>1)</sup>、進 伸幸<sup>1)</sup>、岡田 保典<sup>2)</sup>、青木 大輔<sup>1)</sup>

0-17 Progesterone による子宮内膜増殖抑制の作用機序の解析

金沢大学大学院医学系研究科 産婦人科<sup>1)</sup>、佐々木研究所附属雲堂病院 婦人科<sup>2)</sup>、

○京 哲<sup>1)</sup>、坂口 純子<sup>1)</sup>、水本 泰成<sup>1)</sup>、毎田 佳子<sup>1)</sup>、森 紀子<sup>1)</sup>、  
生駒 友美<sup>1)</sup>、橋本 学<sup>1)</sup>、高倉 正博<sup>1)</sup>、坂本 優<sup>2)</sup>、井上 正樹<sup>1)</sup>

## 0-18 子宮体癌の抗 EGFR 抗体 (C225 : cetuximab) による分子標的治療 — 第2報

自治医科大学 産科婦人科学

○高橋佳容子、竹井 裕二、嵯峨 泰、町田 静生、大和田倫孝、  
鈴木 光明

---

### 第6群

座長：九州大学大学院医学研究院 生殖病態生理学 講師 小林 裕明

## 0-19 分子標的薬によるトランスレーショナルリサーチの実践

大木記念女性のための菊池がんクリニック 婦人科<sup>1)</sup>、帝京大学医学部 産婦人科<sup>2)</sup>、  
宮城県立がんセンター 婦人科<sup>3)</sup>、防衛医科大学校 産婦人科学<sup>4)</sup>

○菊池 義公<sup>1)</sup>、喜多 恒和<sup>2)</sup>、工藤 一弥<sup>3)</sup>、高野 政志<sup>4)</sup>

## 0-20 前治療抵抗性・再発卵巣癌に対する個別化分子標的薬と Paclitaxel 併用治療の試み

防衛医科大学校 産科婦人科学<sup>1)</sup>、大木記念女性のための菊池がんクリニック 婦人科<sup>2)</sup>、  
宮城県立がんセンター 婦人科<sup>3)</sup>、帝京大学医学部 産婦人科<sup>4)</sup>

○高野 政志<sup>1,2)</sup>、菊池 義公<sup>2)</sup>、工藤 一弥<sup>2,3)</sup>、喜多 恒和<sup>2,4)</sup>

## 0-21 HB-EGF (HB) を標的とした卵巣癌治療の医師主導型治験

福岡大学医学部 生化学<sup>1)</sup>、九州大学医学部 病態生理学・産婦人科<sup>2)</sup>、福岡大学病院 産婦人科<sup>3)</sup>、  
大阪大学微生物病研究所 細胞機能分野<sup>4)</sup>

○宮本 新吾<sup>1)</sup>、八木 裕史<sup>2)</sup>、四元 房典<sup>1,3)</sup>、深見 達弥<sup>1)</sup>、吉里 俊幸<sup>3)</sup>、  
堀内 新司<sup>3)</sup>、瓦林達比古<sup>3)</sup>、目加田英輔<sup>4)</sup>

休 憩 17:56～18:00

---

特別講演 18:00～19:00

共催：ブリストル・マイヤーズ(株)

座長：熊本大学大学院医学薬学研究部 婦人科学分野 教授 片瀨 秀隆

## [ 抗癌剤効果の分子機構 ]

慶應義塾大学医学部先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門 教授 佐谷 秀行

# 抗癌剤効果の分子機構

慶應義塾大学医学部先端医科学研究所 遺伝子制御研究部門 教授 佐谷 秀行 先生

現在臨床で使用されている抗癌剤の多くは、正常細胞の傷害は最小限にとどめ癌細胞のみを死滅させるという *in vitro* のスクリーニングによって得られたものであり、その抗腫瘍効果の分子メカニズムは意外にも明らかになっていない。また、現在行われている抗癌治療の多くは、癌腫に対してある程度の効果を発揮するものの、正常細胞への影響(副作用)が無視できないために、いまだに理想的な治療とは言えない。抗癌剤がどのような機構によって癌細胞を殺すのか、また癌細胞と正常細胞の感受性の差がどのような要因に基づくのか、更には治療が奏効する癌と奏効しない癌の違いがどこにあるのかを理解することは、副作用を最小限に抑えつつ癌細胞を特異的に死滅させる新たな癌治療を創生する上で極めて重要である。

現在広く使用されている抗腫瘍薬としてDNA 傷害性薬剤、微小管作動性薬剤があるが、これらの薬剤によって処理された腫瘍細胞は分裂期に長期に停止し、分裂期から直接死滅することを私達はこれまでの動態解析の研究によって示してきた。この細胞死は分裂期崩壊(mitotic catastrophe)と呼ばれ、私達は分裂期崩壊は細胞が分裂中期に停止する時間と相関することを見出し、紡錘体チェックポイント機能が長時間(10時間以上)活性化していることが必要であることを明らかにした。また長時間分裂期に停止することにより、特定のリン酸化シグナルが亢進することが分かり、そのシグナルが分裂期崩壊を誘導することが分かった。日常的に用いられている抗癌剤の作用機構を分子レベルで解説し、それに基づき薬剤抵抗性の新たなメカニズムについて議論を行いたい。

## miRNA (micro-RNA) による テロメラーゼ制御 –miRNA の新機能–

金沢大学大学院医学系研究科 産婦人科

○高倉 正博、京 哲、坂口 純子、  
生駒 友美、水本 泰成、森 紀子、  
橋本 学、毎田 佳子

**【目的】** 染色体末端のテロメアを延長する酵素テロメラーゼの制御メカニズムの解明は癌化の重要なステップを明らかにすると同時に新たな癌治療へとつながる。miRNA は20～25塩基の1本鎖 RNA で様々な遺伝子調節に働いているがテロメラーゼ調節に関する報告は未だなされていない。本研究の目的はテロメラーゼ発現の決定因子である逆転写酵素 hTERT 遺伝子発現における miRNA の役割を明らかにすることである。

**【方法】** hTERT mRNA の3' 領域に高い相同性をもつ miRNA を Sanger institute miRBase Sequence database で5種ピックアップしそれらを子宮頸癌細胞株 HeLa と C33A に導入しテロメラーゼ活性を TRAP 法で調べるとともに、mRNA 発現についても検討した。また hTERT プロモーターの転写活性に対する影響をルシフェラーゼ法で評価した。さらに hTERT mRNA の安定性を mRNA stability assay で検討した。

**【成績】** 今回使用した miRNA のうち miR-299-3p は C33A・HeLa とともにテロメラーゼ活性および hTERT 蛋白発現を低下させた。さらにこれまでに報告されている miRNA による遺伝子調節のほとんどは翻訳レベルでの抑制であるにも関わらず hTERT mRNA の発現減少も認められた。miR-299-3p は hTERT 転写活性には影響を及ぼさなかったが、hTERT mRNA の分解を促進していることが明らかになった。

**【結論】** miRNA による hTERT 発現調節は従来一般的とされていた翻訳抑制によるものではなく、mRNA 分解促進によるものであり、これはヒト細胞における miRNA の機能に一石を投じる知見と考えられる。

## 受容体型チロシンキナーゼ Met を 標的とした低分子阻害剤の開発

1) 防衛医科大学校 分子生体制御学、  
2) (株)理論創薬研究所、3) 東京理科大学薬学部 生化学、  
4) 東京理科大学 ゲノム創薬研究センター

○松尾 洋孝<sup>1)</sup>、守本 祐司<sup>1)</sup>、高橋 哲<sup>2)</sup>、  
吉森 篤史<sup>2)</sup>、佐伯 和徳<sup>3,4)</sup>、高澤 涼子<sup>3,4)</sup>、  
田沼 靖一<sup>3,4)</sup>、四ノ宮成祥<sup>1)</sup>

**【背景と目的】** Met は HGF/SF シグナルを細胞内に伝達する受容体型チロシンキナーゼで、腫瘍増殖促進、アポトーシス回避、細胞間接着性の減弱・浸潤性の獲得、腫瘍血管新生などに関与する。したがって、HGF/SF-Met 系は癌の発育進展に重要な全てのステップに関与するマスター的なシグナル伝達系と考えられ、新たな癌治療法及び制癌剤開発の極めて重要な標的分子となっている。本研究では Met Kinase に対する低分子阻害剤の開発を試みた。

**【方法と結果】** High Throughput Screening 系による Met 阻害剤の試行錯誤的選定は非効率的であることから、本研究では、タンパク質分子の活性/抑制ドメイン (Hot Spot) に対する最適結合ペプチドを基に低分子設計を行う新しい in silico 創薬方法論を用いて開発を行っている。これまでに、本 in silico 創薬方法論を用いて Bcr-Abl 阻害剤である R66 の同定に成功している。興味深いことに、Met と Bcr-Abl の Kinase ドメインの配列類似性は約 33% であるにもかかわらず、Bcr-Abl 上の Gleevec 結合サイトとそれに相当する Met 上のサイトとの配列類似性は約 88% であった。また、Met の構造は Gleevec 耐性 Bcr-Abl 変異体 (T315I 変異体) に類似することから、この変異体をターゲットにした新規阻害剤 R66 が Met においても Kinase 阻害活性を持つことが予想された。実際に、R66 の効果を MTT assay 及び scattering assay を用いて解析した所、Met Kinase 活性が阻害されていることが判明した。

**【考察】** R66 は低分子 Met Kinase 阻害剤開発のリード化合物となり得る可能性が示唆された。R66 構造をもとに最適化を行えば、より特異的で結合活性の高い最適医薬分子が開発できるものと期待される。

---

## 後 援

---

熊本大学大学院医学薬学研究部 産科学・婦人科学  
熊本大学医学部産科婦人科学教室同窓会

---

## 協賛病院一覧

---

下記の病院よりご協力を賜りました。ありがとうございました。

医療法人社団 坂梨会 阿蘇温泉病院  
医療法人 潤心会 熊本セントラル病院

---

## 協賛会社一覧

---

下記の各社よりご協力を賜りました。ありがとうございました。

大鵬薬品工業 (株)  
ブリストル・マイヤーズ (株)

---

## 広告掲載会社一覧

---

下記の各社よりご協力を賜りました。ありがとうございました。

協和発酵工業 (株)  
熊本全日空ホテルニュースカイ  
サノフィ・アベンティス (株)  
塩野義製薬 (株)  
正晃 (株)  
大鵬薬品工業 (株)  
中外製薬 (株)  
(株)トランスジェニック  
ブリストル・マイヤーズ (株)

